

令和8年度 京都府立西舞鶴高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（全日制）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）		
<p>「究理 尚志 敬人」の校訓と「努力と友情」の西高精神を教育の柱に据え、めまぐるしく変化していく社会において、変化を前向きにとらえて主体的に行動し、よりよい社会と幸福な人生を創り出せる人を育てる。</p> <p>「究理」真理を求め勉学に努める 「尚志」高い理想を抱きその実現に努める 「敬人」人を敬愛し誠実に生きる</p>	<p>(1) ・「総合的な探究の時間」では生徒の主体性を育てる実践を行い、一定の成果が見られた。 ・舞鶴市や市内企業・高等教育機関等との外部との連携を進めて充実した活動ができ、生徒が地域の一員としての自覚を持つ一助とできた。 ・公開授業や授業アンケートを実施したり、評価についての分析などに取り組んだりするなど、組織的に授業改善に係る研究を進めた。 ・外部機関との連携を進め、主体的、対話的で深い学びをさらに充実させる。 ・「地域に開かれた学校づくり」をさらに推進するための取組を進め、本校の魅力を伝えて中学生から選ばれる学校づくりを行う。</p> <p>(2) ・進路指導部と学年部が連携し、各生徒の実態に応じて適切な支援の手立てについて共通認識を図るなど組織的な指導体制の整備を図り、希望進路に応じた丁寧な指導を進めることができた。 ・難関大学への継続的な合格など、一定の成果がみられた。進路指導に必要な情報、指導方法を共有し、1年次では学力の定着と文理選択を図り、2年次では具体的な希望進路を確立させることを大切にしていける。 ・学校推薦型選抜・総合型選抜においては、総合的な探究の時間の内容と進路希望とリンクさせてテーマ設定をするなど進路実現に繋げていく。</p> <p>(3) ・部活動では、地道に努力する生徒と教職員の指導により、全国大会や近畿大会に出場する生徒を輩出できた。 ・学業と部活動の両立のための支援を継続していく。 ・社会性等を身に付けるために生徒会活動、学校行事、ボランティア活動などに積極的に取り組んでいく。</p> <p>(4) ・生徒会を中心に学校行事を計画的に進めることができた。 ・保健部と学年部との連携によりSCやSSWとの共通理解のもとで生徒の支援を積極的に進めた。 ・特別支援が必要な生徒に対する進路指導・受験指導を担任と連携して行うことができた。 ・挨拶の励行、ボランティア活動の活性化、人権意識の向上、学校生活になじめない生徒への手立てやいじめ・体罰の防止には今後も重点的に取り組む必要がある。</p> <p>(5) ・地域社会に貢献し、その期待に応える学校づくりを進めていく。 ・ホームページ、西高だより、新聞広報を通して、中学生や地域の方に本校の教育活動の成果がよくわかるよう情報発信を行うことができた。 ・「地域に開かれた学校づくり」を充実していく必要がある。 ・校内業務のDX化を進め、授業支援や事例共有を行い、ICTを活用した授業研究を進めることができた。さらに校内全体で研修を進めながら情報モラルに関して意識を高めていく。</p>	<p>スクールミッション「理数探究科・普通科を設置する高校として、地域連携や高大連携による探究活動、学習と部活動の両立を充実させることにより、高い学力を身に付け、知・徳・体の調和のとれた人間の形成を目指し、将来の科学技術分野を担う人材を育成する。」に応えるため、以下のことに取り組む。</p> <p>●「努力と友情」の精神に則り、自らを律し他者を思いやる気持ちと自分を大切にすることを醸成する（次のような力を育む）。</p> <p>【理数探究科】 ・国公立大学の理系学部への進学に必要な幅広い学力と探究心 ・科学技術分野での活躍に必要な科学的に探究する力、情報を活用する力、共創する力 ・科学、科学技術の進展が及ぼす影響を社会的、倫理的な側面から考える力</p> <p>【普通科】 ・四年制大学等への進学に必要な幅広い学力 ・自分の将来を設計し、その実現のために必要な自己管理能力、自己分析力 ・地元舞鶴市など京都府北部地域の発展に貢献する高い意識</p> <p>●多様性を理解し、他者と協働して課題解決に向かう姿勢を養う。</p> <p>【理数探究科】 ・多くの理数系科目、学校設定科目により系統的な学習を進め、生徒の個性を伸長する。 ・探究のサイクルを通して科学的に探究する力を養う。 ・最先端の科学、科学技術に触れることで、広い視野とチャレンジ精神を養う。</p> <p>【普通科】 ・少人数授業や習熟度別授業を取り入れ、基礎基本を大切にすること。 ・文系特進クラスや理系クラスを設置し、きめ細やかな進路指導を行う。 ・地元企業や団体と連携した探究活動を通じて、課題解決能力を養う。</p> <p>●勉学だけでなく、部活動、生徒会活動にも励み、希望進路の実現に向けて努力する生徒が志願する学校を目指す。</p> <p>【理数探究科】 ・数学、理科、探究活動に高い興味・関心を持ち、主体的に学ぶことができる生徒 ・将来、リーダーとして国内外で活躍したいと考えている生徒</p> <p>【普通科】 ・将来の夢や目標に向かって自らを高めることができる生徒 ・地方創生に関心があり、舞鶴市と連携した活動に取り組む生徒</p>		
評価領域	項目（重点目標）	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	教職員の資質能力を高め、学校全体の教育力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員が互いに教え合いながら切磋琢磨し、日常的に自己の教科指導力、生徒指導力、業務遂行力を向上させるなど、自立的な人材育成を図るための職場環境作りと研修の場を充実させる。</li> <li>センター研修など研修の意義を周知し、積極的な講座受講を推奨する。</li> <li>分掌部長・教科主任を核に、本校の課題に対する共通理解を深め、学校運営・教育活動の一層の活性化を図る。</li> </ul>		
	教育活動を充実させ、生徒の学校生活に対する満足度を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒には、一段高い目標を持たせ、自己の変容を実感できるよう指導を行う。</li> <li>主体的・対話的で深い学びや、探究活動を推進し、学力の向上・進路希望の実現を図る。</li> <li>特別活動の充実を図ることで、生徒の生活の自立と学習の自立を促す。</li> <li>生徒が多様な文化・価値観に触れ、グローバルな視野と実践的な英語力を身に付けるため、留学機会を体系的に提供していく。</li> <li>地域や高等教育機関との連携をさらに進め、生徒が地域の一員としての意識を持ち自己有用感を高める機会を創造する。</li> <li>ICTを活用した授業を工夫し、生徒の学力向上を目指して研修を推進する。</li> </ul>		
	学校の取り巻く状況を見据えた学校改革を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校説明会の内容の充実と小・中学校等地域との連携の強化を進め、中学生から選ばれる魅力ある学校づくりを行う。</li> <li>個別相談会を複数回設け、丁寧な説明を通して中学生や保護者等が理解を深める機会とする。</li> <li>本校の教育内容・実践等に関して、ホームページ、西高だより、新聞を使って情報発信し「地域に開かれた学校づくり」を推進する。</li> </ul>		
	学校を取り巻く危機に対して万全の対策を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の安全を様々な危機から守るための校内体制を作るとともに、京都府教育委員会や関係機関と密な連携を図る。</li> <li>保護者等への連絡をスピーディに行い、保護者等からの信頼を得られるような日々の活動を充実していく。</li> </ul>		

教務部	校務運営	基礎学力の充実	・学習環境の整備に努め、時間割変更等にきめ細かく対応し、授業を大切にすることを旨とする。 ・個に応じた学習を支援するため、スタディサブリ到達度テストの連動課題配信を年間10回行い学校全体での活用を促す。			
		教科指導力向上	・公開授業週間を年間2回実施し、他の教員の授業参観を通じて、お互いの指導力の向上を図る。 ・授業アンケートを年間2回実施し、結果をフィードバックして授業改善を図る。			
		ICT機器活用能力向上	・生徒に対する授業アンケートにおいて、ICT機器の適切な活用に関する項目が3.8点以上(4点満点)を維持できるよう、タブレット端末などのICT機器を生徒・教員双方が活用できる場を増やしていく。			
		教育課程の在り方検討	・生徒が主体的に学べる環境づくり、多様な生徒の包摂、指導と評価の一体化を目指し教科主任会議と連携しながら、質の高い、深い学びを実現する教育課程を編成する。			
生徒指導部	生徒指導	いじめ事象の速やかな対応	・生徒観察、生徒への声掛け、個人面談等の情報を教職員でしっかり共有しチームで対応していじめの未然防止に努める。 ・「いじめ」の特別指導0件。			
	安心・安全	安心・安全な学校づくり	・生徒が貴重品を自己管理する習慣の定着を図るため、日常的な呼びかけを行う。 ・窃盗事案0件。			
	特別活動	部活動の対話的運営化	・顧問が主体的・対話的な部活動運営を心掛けるよう促す。 ・退部届提出者を10名以内。			
進路指導部	希望進路の実現	教育相談的機能の強化	・進路検討会を年間で3回以上実施し、生徒の状況に応じて、組織的に進路指導を行う。			
		各種進路ガイダンスの充実	・各種ガイダンスを充実させ、生徒の内発的動機づけを促し、進路希望調査での進路未定回答者数を昨年度より減少させる。			
		面接・小論文対策指導の充実	・校内外の人的資材を有効に活用し、丁寧な推薦入試対策指導を行い、国公立大学推薦入試合格率6割以上を目指す。			
		「社会人としての自覚」の醸成	・就職希望者への丁寧な職業紹介を行うとともに、労働法規に係る学習、社会人マナー実習などの内定後指導を実施し、内定率100%を目指す。			
	信頼される学校づくり	各種情報の適切な発信	・ホームページの進路関係の内容を年間15回以上更新することを目標にし、保護者等・地域のニーズを意識した情報発信を行う。			
保健部	心身の健康管理	配慮を要する生徒や心身の健康問題を早期発見及び対応できるような支援体制作り	・合理的配慮が必要な生徒について学年部との密な連携と支援。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー及びトータルサポートセンターなどの専門機関との連携。 ・要配慮生徒に関わる教職員間の情報共有。			
		熱中症対策	・教職員や生徒への啓発により予防に努め、深刻な熱中症事例0を目指す。			
		教職員研修・生徒対象学習など	・救急救命講習・薬物乱用防止教室・ストレスマネジメントの実施。また、要配慮生徒の対応例及びプレコンセプションケア教育(妊娠前教育)についての啓発。			
	安心・安全な学校生活	清掃・美化活動の充実・日常安全点検	・校内美化に対する意識を高め、より快適な学習環境作りに努める。			

特色推進部	地域に開かれた学校づくり	広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理数探究科及び普通科の教育内容等の情報や魅力、本校の特徴的な取組等を中学生・保護者・中学教員向けに効果的に提供し、両学科ともに倍率1.0を超えるために高校説明会や学校公開等の機会を活用する。</li> <li>・学校生活における生徒の生き活きとした姿や活躍、学校教育の成果を迅速に伝えるために年200回以上のホームページ更新や年5回以上の広報紙等発行を行う。</li> <li>・地域の新聞社など情報機関と連携した広報を行っていく。</li> </ul>			
	新たな価値観を見だし、未来を展望する力を育む	図書館活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館にある本を1冊も借りていない生徒の割合が卒業時に20%を下回るようにするため、図書委員会活動や各教科との連携等を通じて生徒に図書館の利用を促し、読書活動や探究活動を支援する。その際には、電子書籍も含めて活用する。</li> <li>・芸術鑑賞会など、生徒の心を豊かにする活動を展開する。</li> </ul>			
		「はばたき(総合的な探究の時間)」の企画・立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年部と協力して普通科の「はばたき(総合的な探究の時間)」の企画・立案を行い、多様な学習活動の実践や地域との連携により「主体的・対話的で深い学び」を実現する。</li> <li>・学びの共有や深化を図るため、中間発表・最終発表を各学年で実施する。</li> </ul>			
理数探究科	先進的な理数教育	探究活動の充実と指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年や教科の枠を越えた探究的な活動を述べ20回以上行う。</li> <li>・教科会議等での探究活動の事例交流を10回以上行う。</li> </ul>			
		発表や発信活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校外の発表会参加や発信活動を通して、多様な他者と深く関わる機会を10回以上設ける。</li> <li>・各種科学コンテストやイベントの案内を効果的に発信し、主体的に科学を学ぶ生徒を育成する。</li> </ul>			
	希望進路の明確化と実現	外部連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都工芸繊維大学、福知山公立大学、京都大学フィールド科学教育研究センターなどの連携機関との協力体制を深め、延べ10回以上の外部連携を行う。</li> </ul>			
		受験指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分掌間・教科間連携により、学校全体で取り組む授業力・教科指導力の向上に様々な形で貢献する。</li> </ul>			
人権教育	人権学習	多様性と調和性を大切にする人権尊重の態度を育み、さまざまな人権問題について正しい認識と問題解決のための行動力を培う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年部や各分掌と連携し系統的・計画的に人権学習を推進する。</li> <li>・時代のニーズに応じた学習教材・講演会・内容を研究・検討し、手法の工夫・改善に取り組む。</li> <li>・講演会とは別にLHRや地歴・公民科の授業を活用した人権学習の時間を各学年、年に最低1回は行い、人権意識の高揚を目指す。</li> </ul>			
	連携	教育活動を充実させ、生徒の学校生活に対する満足度を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年部・生徒指導部・保健部等と連携し、いじめの防止や困難な条件を持つ生徒の把握・援助に努め、進路保障を図る。</li> <li>・中舞鶴保幼小中高連絡会等との地域連携を一層深め、就修学の保障に努める。</li> </ul>			
	研修・研究	全ての教育活動を通じて人権教育に取り組む観点から、人権感覚を日常的に育む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員が人権教育に対する認識を深め、人権意識の高揚を図る。</li> <li>・府高人研主催の課題別研究交流会など研修会等に積極的に参加し、様々な人権課題に対する実践的考察や手法等を身に付ける。</li> <li>・人権教育全体計画に従って、各教科の授業や取組において人権の視点を踏まえた指導を考察し、展開する。</li> </ul>			
第1学年部	学習指導	多様な学力層に対応した学習支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座や到達度に応じた課題を提示し、基礎の定着を支援しつつ、発展的な学びの機会を設定する。</li> <li>・小テスト・提出状況を学年で共有し、未定着・未提出は組織的に対応する。</li> <li>・学習時間と方法を具体化し、習慣として定着させる。(自宅学習時間は段階的に増やし、平日2時間以上、休日3時間以上)</li> </ul>			
		主体的な学習者の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習計画と学習の進捗を可視化し、振り返りで自らの取組を改善させる。(学習計画書や模試の振り返りシートの提出率100%)</li> <li>・授業における発問と対話を通して、考えさせ、表現させる。</li> </ul>			
	生徒指導	安心・安全を基盤とした高校生活への円滑な移行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールと基準(時間・期限の厳守)を明示し、学年で共有・統一して徹底する。</li> <li>・欠席・遅刻・未提出は初期で捉え、即対応する。(3学期の無断欠席・無断遅刻の件数を0にする。)</li> <li>・面談・HRで不安を拾い、継続してフォローする。(学校評価生徒向けアンケートの「悩みを気軽に相談できる教員がいるか」の肯定的な回答を90%以上にする。)</li> </ul>			
		自律・再出発の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面談で目標を持たせ、行動・生活を振り返らせる。(各学期1回以上実施)</li> <li>・日常生活・行事・部活動において役割を与え、自分で動く経験を積ませる。</li> </ul>			
	人間関係形成	言葉を通じた思考力・表現力の育成と、他者理解の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶などの基本的な関わりを大切にし、安心して発言できる環境を学年全体で整え、対話への参加を促す。</li> <li>・互いの違いに向き合い、尊重し合える関係を築かせる。</li> <li>・関係の中で生じる課題は、対話で乗り越えて関係を深めさせる。</li> <li>・家庭と情報を共有し、共通理解のもとで関わる。(学校評価保護者等向けアンケートの回答率を70%以上にする)</li> </ul>			

第2学年部	学習指導	国際理解教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学する生徒を10人以上にする。</li> <li>・ホームステイの受け入れ家庭を10家庭以上にする。</li> </ul>		
		成績上位層の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月進研記述の5教科総合において、偏差値70以上を10人以上にする。</li> </ul>		
	生徒指導	人間力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修旅行に向けて様々な取組を行い、旅行後に実施するアンケートで満足度90%以上を目指す。</li> </ul>		
	保護者等連携	信頼関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧な連携を図り、年度末の保護者等アンケートで80%以上にする。</li> </ul>		
第3学年部	進路指導	希望進路実現の支援に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部や教科担当者等との連携を密にし、様々な情報を収集するとともに、面談を適切に行い、生徒が希望進路の実現に向けて意欲的に取り組むことができるよう支援する。</li> <li>・早期から計画的に小論文・面接・口頭試問対策等を行い、総合型選抜・学校推薦型選抜における合格率65%以上を目指す。</li> </ul>		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・最高学年としての自覚を一層高め、「西高生」として挨拶・身だしなみ・環境美化及び規則の遵守を大切にすることを育成する。</li> <li>・無断欠席・無断遅刻を0とする。</li> </ul>		
	生徒指導	社会の一員としての自覚を高め、規範意識を育み、よりよい人間関係の構築を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校祭や部活動等を通して、後輩を支え導こうとする姿勢を養い、仲間とのよりよい関係を構築しようとする意識を高める。</li> </ul>		
保護者等連携	保護者等と連携し、よりよい信頼関係の構築に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、保護者等との連絡を密にし、家庭連絡はもとより三者面談等を丁寧に行うことで信頼関係の構築に努め、学校評価アンケートにおける保護者満足度等90%以上を目指す。</li> </ul>			
事務部	教育環境の整備	生徒及び教職員が安全・安心な学校生活を送れるような教育環境を確保する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎・施設等の適正な維持管理に努める。また、月に1回程度事務部で施設点検を実施する。さらに他の教職員とも情報共有し、危険箇所の早期発見及び早期対処、修繕計画の作成を行う。</li> </ul>		
		学校の特色化を進める設備・備品の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究活動や理数教育等特色ある教育活動を進めるため、各分掌と連携をとりながら効果的な予算執行に努める。</li> </ul>		
	選ばれる学校づくり	広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報活動を充実させるための予算の確保する。</li> </ul>		
	修・就学支援	生徒の修・就学支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者等・生徒に対する十分な案内周知と丁寧な対応を行い、就学支援金や各種奨学金事務を円滑に実施する。</li> </ul>		
	会計管理	適切な会計事務の執行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会計事務研修に参加するなどし会計事務に関する知識を深め、給与、旅費及び会計事務等の適正な処理に努める。</li> <li>・事務遅延が生じないよう主担当・副担当を中心に職員相互の進捗状況のチェックを行う。</li> </ul>		
学校関係者評価委員会による評価					
次年度に向けた改善の方向性					

評価 A：十分達成できている（目標以上の成果が得られた） B：ほぼ達成できている（ほぼ目標通りの成果が得られた） C：達成できているとはいえない（成果はあったが、目標に達していない） D：ほとんど達成できていない（ほとんど成果がなかった）